

予 算 要 求 資 料

令和 7 年度 3 月補正予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 **【新】博物館開館50周年 岐阜神岡恐竜溪谷プロジェクト** 事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 博物館 総務部管理調整係 電話番号：0575-28-3111(内250)

E-mail：c21804@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 16,582 千円 (現計予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現計予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補正予算額	16,582	8,291	0	0	0	0	0	0	8,291
決定額	16,582	8,291	0	0	0	0	0	0	8,291

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

県博物館は令和 2 年より福井県立恐竜博物館らと共に飛騨市神岡町に分布する手取層群を対象に共同調査研究を行っており、同市初の白亜紀ボーンベッドや県内初の白亜紀ワニ形類歯化石を発見するなど、その成果を令和 7 年 1 月の岐阜県博物館調査研究報告会及び日本古生物学会第174回例会において報告し、岐阜新聞朝刊第 1 面をはじめメディアに大きく取り上げられた。一方で、ボーンベッドを含む露頭は河川を渡った対岸に位置していることや、周辺が私有地に囲まれていることなど、今後の重機による大規模発掘に着手するための環境整備が必須である。

(2) 事業内容

本事業では、飛騨市全面協力のもと、これらの課題解決と神岡の地域発展・振興を含めた「神岡恐竜溪谷」プロジェクトを実施する。本プロジェクトでは、ボーンベッドの大規模発掘調査の実施に向けた重機進入路の確保とともに恐竜化石試掘調査を行い、また採掘した岩石を用いた化石発掘体験を行う。加えて、試掘調査後は試掘エリアの露頭を整備し、「現地見学会(ジオツアー)」を行う。さらに、普及講演会や調査研究報告会を実施し、試掘調査成果について公表する。

（３）県負担・補助率の考え方
第２世代交付金充当（補助対象経費の１／２補助）

（４）類似事業の有無
特になし

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	80	講演会講師謝金
旅費	100	資料調査、講師費用弁償
需用費	802	標本保管用資材費、チラシ等印刷製本費
委託料	15,400	恐竜化石発掘調査業務委託
備品購入費	200	発掘調査関係備品購入
合計	16,582	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ
本事業は、同地のボーンベッドの本発掘に向けた環境整備の一環であり、重機搬入路の確保と試掘調査を兼ねている。

（２）国・他県の状況
徳島県立博物館
「日本最古級恐竜化石含有層調査・発信プロジェクト事業（R06）」：27,200千円

（３）後年度の財政負担
後年度以降は計画を移行し、ボーンベッドにおける本発掘実施のため、外部資金等の活用も検討したうえで事業を継続する。

（４）事業主体及びその妥当性
本事業の核となる恐竜化石試掘調査（重機搬入路の確保を含む）は、博物館にしか担えない学術的な調査研究事業であることから、地元の飛騨市と協力しつつ博物館が主体となって行うべきものと考ええる。そのうえで、用地購入や普及事業の企画・運営等を飛騨市が担うことで、費用負担の分散や人手の確保を試みている。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和8年度はボーンベッドへの重機搬入路を確保することで、令和9年度以降にボーンベッドにおける大規模発掘調査を実施するための環境整備を行う。また、重機搬入路の確保に伴い、恐竜化石試掘調査を実施する。加えて、得られた岩石を用いた化石発掘体験や現地見学会、普及講演会、調査研究報告会等を実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	実績	目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
博物館入館者数 (館外事業の利用者含む)	158,642			200,000	200,000	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和5年度	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和6年度	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	今日、日本の恐竜化石産地は19道県まで増加しており、日本は東アジアにおける主要な恐竜化石産出国の1つとなりつつある。中でも福井県を筆頭に多数の恐竜化石発見例のある手取層群が分布する飛騨市神岡町において白亜紀ボーンベッドが発見されたことは、県内産の新たな恐竜化石の発見が期待されるだけでなく、「恐竜・化石」をテーマとした博物館活動や教育事業、地域振興等、他分野にわたり大きな普及効果が見込まれる。
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	令和2年以降の手掘りの小規模発掘調査において、飛騨市初の白亜紀ボーンベッドや県内初の白亜紀ワニ形類歯化石を発見するなどの成果をあげており、岐阜新聞第一面をはじめ、各種メディアにも取り上げられている。
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	飛騨市や福井県立恐竜博物館等の協力を得ることで、本事業における予算削減と人手確保が見込まれ、より効率的な事業実施が可能となった。
貴重なボーンベッドの発見は県内産の新たな恐竜化石発見が期待される一方で、大規模な露頭における発掘調査・研究は長期にわたることが予想され、継続的な調査・研究実施のための資金や人員確保が課題である。	

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ボーンベッドへの重機搬入路が確保された場合、次年度以降はボーンベッドにおける本発掘に向けて準備を進める。そのためにも、試掘調査で得られた調査研究成果の公表と化石発掘体験等の普及活動を適宜実施し、県民の本事業に関する認知度やニーズを高めるとともに、クラウドファンディング等を併用することで、効率的な資金確保と継続可能な事業実施を試みる。	
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	